

日刊 労働千葉

83, 1, 19
No. 1244

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七

焦点 中韓訪米 根の意味もさるの



対決ムード 対 おみやげムード
山田 林

1・17 訪米

日米争闘戦が一層激化 — 日米安保の再編強化と独自の軍大化・改憲への全面突入狙う 中曽根 —

【A】深刻なアメリカ経済の破綻と日米対立

レーガン政権下のアメリカ経済は急激な悪化をたどり、ついに昨年末には対日貿易赤字が史上最大の二百億ドルに達し、レーガン自身が「日本市場の開放か、それとも戦争を導いた一九三〇年代の再来か、重大な岐路にたたさされている」と演説し（昨年十一月二日）日帝に決断をつきつけるに至っている。そして、完全失業者数が千二百万人（東京都の総人口に匹敵する）にものほり、完全失業率は10%を越え、半失業者も含めると15%（黒人、婦人層の失業率は50%にも達している。経済成長率が長期のマイナスをたどる中でとりわけ、日本からの主力輸出品目である自動車・鉄鋼・重化学工業製品・せいの製品等の製造業部門を中心に倒産が急増し、一九八一年間一万二千件、一九八二年間二万二千件、しかも大型化してきている）かつて自動車工業の街デトロイトはゴーストタウン化しているといわれる反面で、わずかに軍需・兵器産業のみが「好況」をほこっているという状況の中で、ついに、本格的な大恐慌・金融恐慌の前兆とされる銀行倒産さえもがはじまっている。

このような体制の危機を、ただただやみくもな軍拡・戦争挑発政策（「たとえ米国民二千万人が死んだとしても米国は核戦争をやっても生きのびる」とレーガンは演説）・経済の軍事化と他帝国主義への「負担の分担」にもとめているレーガン政権下で、今や、日本への風当りはますます激しくなっており、日本商品をしめ出す法案の提出・保護貿易主義への傾斜、さらには「リメンバー・パールハーバー!!」日本車うちこわし、等「排日」運動が高まってきている。

西欧・東欧・ソ連圏・中後進諸国等ものきなみ同様の危機を深める中、全世界が泥沼の争闘戦に一拳に入っており、互いに排外主義をおおいつつ、自己の勢力圏・市場確保のために競って軍拡・戦争路線に走っている。

【B】日米安保の再編強化—歯止めはずした軍事大国化へ
このようなかで開かれる日米首脳会談は第一に、各々が体制延命

をかけ、戦後の日米関係の見直し—総決算—をかけた日米安保同盟の軍事的再編強化とそれをも利用しテコとした日本帝国主義の「歯止めはずした」軍事大国化・大軍拡路線への一挙的突破口となろうとしている。

訪米を前に決定された「八三年度予算」の政府原案は、危機的財政事情のもとで全体が3.1%減と緊縮されている中で軍事予算のみが実質8.6%増と大巾突出し、八四年度での「GNP比-%枠突破」が確定された。中曽根はこれを称して「防衛力増強は日米間の約束ごとであり、いろいろ批判もあるが（訪米をひかえて）私の責任でやる」と開き直っているのである。その他にも、「訪米」を理由に今までのタブーをつぎつぎととりはらい「武器輸出三原則」のなし崩し米国への軍事技術供与、シーレーン防衛、F16三沢基地配備核空母エンタープライズの三月日本寄港をはじめとする核兵器のもちこみなどをつぎつぎと受け入れる決定をおこなっているのである。

【C】憲法改悪への突破口を狙う
第二に、中曽根は、この訪米と米帝からの激しい経済的・軍事的対日要求をも逆手にとり、「憲法改悪への具体的着手」への決定的な水路を開けようとして狙っていることである。

すでに事実上なし崩しにおこなってきた自衛隊の増強につぐ増強の上にたって、核兵器持ちこみやリムパック共同軍事演習・シーレーン防衛など集団防衛問題、国際監視軍の形をとった海外派兵問題等に触れ、「これら米国はじめ国際情勢からの要請にこたえていくためには、どうしても現憲法の見なおしが不可欠であり」「研究に着手するのは当然」と公言し居直っている。

そもそも、中曽根康弘という人物は、「アメリカ占領軍が押しつけた屈辱的な戦後憲法を改定しない限り日本は独立国とはいえない」との思潮を自己の政治信念として政治家を決意した根っからの国粋右翼・改憲論者である。「訪米」を機に、今その反動的地金をむき出しにしようとしているのである。

【D】より一層の朝鮮・アジア侵略へ
第三に、「訪米」に先だち急拠「訪韓」し、「40億ドル援助」と「日韓新時代」をぶち上げてからアメリカにのりこむという露骨な中曽根外交が意味することは、日米間の激烈な争闘戦に日帝が米帝の要求をもとりこみ・利用しながらも、あくまで対抗的に独自の朝鮮・アジア侵略、そのための独自の軍事力増強をおこなっていくのだ、ということをつぎつぎにつける凶暴なアジア侵略宣言でもある。そして、中曽根は5月にはASEAN諸国訪問を予定している。中曽根が進めようとしている道は、かつて一九三〇年代、深刻な日米対立が基軸となって「大東亜共栄圏」に絶望的活路を求め、ついに「パールハーバー」へとむかっていたあの破滅の「いつかきた道」にほかならない。

三里塚—国鉄決戦の大爆発で 反動中曽根内閣を打倒しよう!

反動中曽根は極めて危険な道へと歯止めをはずして突走りはじめた。だが、この「凶暴さ」は本質的には、世界で最もぜい弱な経済的基盤と政治支配—何よりも日本労働者・人民が階級的反抗力をもまだ保持している—という事実の別表現である。「82年反対同盟と動労千葉を解体」83年三里塚二期着工・国鉄労働運動解体—軍大化改憲へ—という支配者側のプランは、我々の反撃により決着が83年にもちこされた。厳しい闘いが勝算は充分ある。その唯一の勝利のカギが「3月三里塚—国鉄決戦」の大爆発だ。「冬の時代だ」「雨降りだ」と嘆きつつ、座してタコツボの底でおぼれ死ぬより、全階級情勢を牽引して闘い勝とう!! 反動中曽根内閣を打倒しよう!!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!